

因果関係モデルで 製品改善案の発想力を アップする

—TRIZとTOCで共通な因果関係モデルを使ってVEの価値を高める—

日時 2016年 **8月31日(水)** 10:00~17:00

主催  **日刊工業新聞社**

会場 **日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム**
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

受講料 **43,200円** (資料・昼食含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円



日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

【アクセス】

東京メトロ日比谷線「人形町駅」A2出口 徒歩3分、都営浅草線「人形町駅」A6出口 徒歩3分

東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」8番出口 徒歩4分

●申込方法

お申し込みはWeb (<http://www.nikkan.co.jp/edu/semi/top.html>) かFAXまたは郵送にて受け付けております。申込受付後、受講票と請求書をお送りいたします。受講料は銀行振込にて開催日までに必ずお支払いください。尚、お支払い済みの受講料はご返金できかねますので、ご了承ください。振込手数料は貴社でご負担ください。

口座名義

(株)日刊工業新聞社

りそな銀行	東京営業部	当座	656007
三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
みずほ銀行	九段支店	当座	21049
三菱東京UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail : j-seminar@media.nikkan.co.jp

キリトリセン

**受講
申込書**

8/31 TRIZとTOC

お申し込みは **FAX 03-5644-7215**

■受講料：43,200円 (資料・昼食含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円

*振込手数料は貴社にご負担ください。

会社名		業種	
氏名	フリガナ ----- -----	TEL	
	部署・役職	FAX	
所在地	〒		
E-mail :		※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は チェックをしてください。 <input type="checkbox"/>	

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。
※一度お振込みいただいた受講料につきましては、ご返金できかねますのでご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止を希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

No.

開催主旨

VEでは、機能系統図を作成した後の製品・サービス改善策の創出について、今まで既存のアイデア発想法を追加的に使用するといった形になっていました。

そのため、機能系統図がよくできていても、使用するアイデア発想法の違いによって、製品・サービス改善策の量や質にばらつきが生まれていました。

製品・サービス改善策の量と質を向上させるには、いろいろなアイデア発想法を駆使すればよいのですが、それらの発想法同士には有機的な関連性がないため、実際には難しい状況でした。

実は、機能系統図を進化させることで、その問題が解決できます。

まず、機能系統図をベースに、機能(作用)同士の原因と結果を表現した因果関係モデルを作成します。因果関係モデルが作成できると、そのモデルから取り組むべき課題を知り、その実現策を発想するという一連の作業が体系的に行えます。

因果関係モデルの作成が、アイデア発想の下ごしらえとしての論理的思考に相当します。これに続く創造的思考は、TRIZとTOCの常套手段を使うことで、課題に対する網羅的な取り組みを実現し、結果的に量と質を満足する製品・サービス改善策が完成できます。

今回のセミナーでは、TRIZとTOCで共通な因果関係モデルを使ってVEの価値を高める方法について、事例を交えて解説します。

講師

アイディエーション・ジャパン株式会社 取締役CTO TRIZシニアコンサルタント **長谷川 公彦氏**



【略歴】 1976年 レオン自動機株式会社に入社し、食品自動機械の開発設計に従事
1980年 日幸工業株式会社に入社し、初代特許室室長を務める
1989年 ホリー株式会社に入社し、総合研究所次長、特許室次長を務める
1999年 佐野国際特許事務所に入所し、特許調査、出願、中間処理、知財創造コンサルを務める
2010年 ウィルフォート国際特許事務所に入所し、TRIZセミナー、コンサルを務める
2011年～アイディエーション・ジャパン株式会社 取締役CTO就任、TRIZコンサルを務める

【所属団体・資格】 NPO法人日本TRIZ協会・理事、知財創造研究分科会主査
特定非営利活動法人日本創造力開発センター 等価変換創造学会会員
(社)発明協会 知的財産アドバイザー、TOCICO認定 ジョナ
TOCfE国際認定、国際認定TRIZプラクティショナー、認定I-TRIZスペシャリスト

プログラム

1. モノコトを因果関係で捉える

- (1) ロシアの巨人とイスラエルの巨人の肩に乗る
- (2) エレベータ問題の事例

2. 因果関係モデルの作成方法

- (1) 因果関係モデルの要素: ボックス
- (2) 因果関係モデルの要素: リンク

3. 因果関係モデルを描いてみる

- (1) 演習: 凍土の霜を取り除く

4. 因果関係モデルから発想する方法

- (1) 問題解決とは理想性を高めること
- (2) 理想性を高める方針を特定する
- (3) 矛盾の解決: TRIZの分離の原則
- (4) 対立解消図: TOCの思考プロセス

5. VEの機能系統図

- (1) ガスライターの機能系統図
- (2) 製品・サービスの要求機能と実現手段

6. 機能系統図から因果関係モデルへ

- (1) ステープル・リムーバーの機能系統図
- (2) ステープル・リムーバーの因果関係モデル

7. 因果関係モデルから発想する

- (1) ステープル・リムーバーの進化
- (2) ステープル・リムーバーの新方式
- (3) ステープル・リムーバーの資源の活用
- (4) 機能系統図+構成要素
- (5) ステープル・リムーバーの理想性を高める
- (6) 理想性を高めるために構成要素を統合する
- (7) 現行システムの不具合を分析する
- (8) 因果関係モデルの効用

8. コスト評価

- (1) 因果関係モデルの効用
- (2) 製品・サービス改善の機会が増える理由
- (3) 因果関係モデルにコスト属性を付加する

9. 改善の先にあるもの

- (1) 問題解決の目的による問題の種類
- (2) アイディエーション・システム
- (3) 新しいステーブラの開発事例

【受講者の得られること】

1. TRIZとTOCの体系的な手法による網羅的な取り組みにより、製品・サービス改善策の数が急増します。
2. 創出された多数のアイデアを分類整理して組み合わせることで、製品・サービス改善策の質が向上します。
3. 従来のように、いろいろなアイデア発想法を駆使しなくとも、VEを使った製品・サービス改善策の創出に自信が持てます。
4. 構成要素のコスト属性をモデルに組み込むことで、製品・サービス改善策のコスト評価が容易になります。